

## 平成17年度第2回山梨県考古博物館協議会議事録

○ 開催日時

平成18年3月17日（金）午後2時～

○ 開催場所

風土記の丘研修センター研修室

○ 出席者

委員：李榮求委員、上田京子委員、大隅清陽委員、斉藤洋子委員、谷口一夫委員、  
花輪定徳委員、（15名中6名出席、他8名委任状提出）

事務局：館長、副館長、学芸課長、総務課員

○ 協議会の成立

山梨県附属機関の設置に関する条例第6条第2項の規定により、出席委員が定足数に達したため協議会は成立した。

○ 議事

- (1) 平成17年度考古博物館経過事業について
- (2) 平成18年度考古博物館予定事業について

（事務局） (1)、(2)について説明

（委員）

毎年盛りだくさんの事業内容であり、皆さんの熱意に感謝するとともにエールを送りたい。昨年は秋のハイキングに、今年は春の部に参加をした。近くにあるけれど、機会がないとなかなか公園内に入らないもので、専門家に説明していただくととてもよく理解でき、他の方々からも参加してよかったと言う意見が聞かれた。今後もぜひ続けてほしいと思う。その際、どんぐりを使ったクッキーをいただいたが、「縄文クッキー」と言うのかとてもおいしかった。

また、子どもたちの研究発表も見学した。後日新聞に掲載されていたが、将来の考古学者としてとても有望である。なお、熱心に取り組んでいる学校も見られるようだが、各学校への周知はどのようにしているのか。申込が数校に限られているが、せつかく地元にあるのだから、他の学校も率先して研究をしてくれたらいいと思う。

(委員)

先ほどの「わたしたちの研究室」の件に関して、この中学は高校受験がないので時間的に余裕があり、先生方も熱心であるので参加しているのではないかと。他の学校でも総合学習で取り組んでもらえるよう、周知をまんべんなく行き渡るようにすればいいと思う。

総合学習に取り入れるとした場合、この研究室の募集が11月1日からということなので、取り組むのは夏休みということになるのか。その宣伝はいつから行うのか。

(事務局)

周知に関しては、募集が11月1日からなので、夏休みの期間を利用した研究を年頭に置いており、この事業の周知もそのことを考慮して行っている。なお、学校の要望により実施している埋蔵文化財センターの出前授業等の際にも前もってチラシを配布したりしている。

(委員)

夏休み前ということでは時期的に難しい。総合学習の計画を立てる時期がちょうど頃なので、計画を立てる時点で学校に周知すれば時期的にも合うのではないかと。私たちの研究室の準備を始めるとしたら、夏休みが重要な時期であるので、休み前にやっておくと一年間の博物館の計画とリンクすると思う。また、前の年に宣伝すればもっと応募が増えるのではないかと。

テレビで紹介されることで、子どもたちの励みにもなるし、もっと発展してくれたらと思う。

(委員)

いろいろな体験学習などを行っていただいていることは社会教育の立場からも、学習の機会が多くなることでうれしく思うし、来年度以降もぜひ続けてほしい。

特に古代衣装の貸出については関心があるが、学校にとってもいい企画ではないかと思う。実績は7校とのことだが、どんな反応を示したのか。

(事務局)

生徒の感想については今手元に詳しい資料はないが、いくつかの衣装のうち、女の子の衣装としては女官、巫女があり、巫女の方に人気があったと思う。鏡やイヤリングを身につけるので興味があるようである。男の子についてはかっこいいということで官吏の衣装に人気がある。着た感想としては、「着るのは大変だが体験できて楽しかった」が多かったと思う。今年度7校しか実施できなかったのは、理由として古代の時代については夏休み前の学習であることから、学校側がそれにあわせて体験を組み込んでいるものと思われ、このことから夏以前に集中してしまい、衣装の数も限られることから調整しきれなかったことが挙げられる。なお、大体のお子さんは喜んでくれたと理解している。

(委員)

今度「白磁の人」というタイトルで映画を作成する企画が進んでおり、これに関連して、県博→考古→高根町を一つの観光ルートとして、山梨のよさを内外に示したらどうか。大勢の観光客をいかに確保し、山梨を見ていただくかが問題。山梨は観光立県を目指していることから考古博物館としてもこういった取り組みも大事である。

(委員)

その地域の歴史を知っていただくことも観光資源としては大切なことでもあります。

(委員)

考古博物館の充実した運営に敬意を表したい。今後については、学校の子どもたちがより多く、参加してもらえるようにすることが重要だと思うが、努力の割に人数が少ないのは残念である。スポーツ関係の行事は土日もなくやっているが、文化関係については土日に実施することは少ないではないか。せつかくいろいろな企画を実施しているのだから、県内の小中学生には一度は来てもらいたい。全国に誇れる縄文土器や、格調高くまとめた特別展・企画展などを学校5日制・総合的な学習の場として活用していただけないだろうか。また、広報もできるだけお願いしたい。協議会委員としても何ができるかということそれぞれの立場で考えていきたいと思う。

(委員)

盛りだくさんの事業内容で大変だと思う。その中で、考古学講座が単発に行われているように思われるので、継続した講座にしながら、考古博物館として何を発信していきたいのか一貫したコンセプトをもち、生きた活用をしてほしいと思う。考古博物館として目玉プログラムになる可能性もある。スタンプラリーの企画は非常にタイムリーなすばらしい企画であり、回を重ねていくとすばらしいものになると思う。

なお、考古博物館のある地域が「古代カイ」の発祥の地であるという点を重視し、方形周溝墓群につづく、米倉山の最初の古墳・小平沢古墳、大丸山、銚子塚、丸山塚古墳等々、編年順に古代発祥の地をめぐるようなプログラムで、ガイドランスをしたらどうか。各遺跡の説明をしながら歩くなどの事業を常設的なものにし、案内をする人を一般の県民や協力会からボランティアとして募集し、マスコミや新聞などの広報媒体を使うことによって、山梨にとっての最大の「歴史プログラム」を作り上げることができるので、事業化してみたらどうか。

(委員)

衣装のレプリカの貸出しについては好評とのことだが、土偶のレプリカなどの貸出しはないのか。例えば土器作りの上級者が作った土器などを貸出すなど、教材として貸し出せるものがあれば教育現場としてはありがたいのだが。

(事務局)

衣装の貸し出しについては、いかにアピールするかが課題であると思っている。これは全ての事業に言えることではあるが、広報活動は4月からHPを中心に行っているが、現在アクセス数が5万件を越えるまでに至っており、健闘していると思う。直接すべての学校にチラシを配るとなると5万枚が常に必要で、年間のすべてのイベントをチラシで配るのは予算的にも無理があり、各教育委員会を通じ広報してもらってもいる。しかし、広報が十分でなかったものもあり、その点については今後工夫したいと思う。また、土器等のレプリカについては文部科学省の補助金を受け、出前授業用の貸出しキットを今年度に作成しました。その中には収蔵庫にある本物の土器を活用することを目的とした持ち出し用収納ケースもあるのでぜひ利用していただきたい。なお、衣装については、コストが1セット150万近くと高額であり、生地も特殊であることから、貸し出した後のクリーニング代に苦慮している。

(事務局)

県の一機関として、限られた予算の中で創意工夫をするなどして、3つの事業のところ、5つの事業が行えるよう、知恵と手作りで補っているのが、今後ともよろしくお願ひしたい。考古博物館で実施している事業については、その内容を全校に配布できればいいのだが、さきほど申し上げたとおりの状況であり、できればホームページに掲載されているので見ていただきたい。委員からのご意見のとおり、考古博物館だけでなく社会教育的なものが重要な要素であると思う。去年は考古博物館関係で参加者が36,000人あったが、本年度は41,000人を越えていることで、博物館事業と社会教育的事業の2つの柱が形になってきたと思う。マスコミも含めて、みなさんに知っていただく努力をしている成果だと思っている。チャレンジ博物館の等の個々の事業については、丁寧に教える関係もあって人数がどうしても限られてしまう。物理的に50名や60名というわけにはいかない。30名程度が限度であり、また、人気のあるものだけを開催すればいいというわけでもなく、考古学を広く知ってもらうことが必要で、教育的意味を十分踏まえた上で、少ない予算の中でいろいろな事業をやっていききたいと考えている。